



写真 夏の研究会「PISA型読解力セミナー」

題字・デザイン 吉田貞介氏

石川県教育工学研究会

2008.3.2

第74号

考える授業、鏡の授業

副会長・金沢大学教育学部 加藤 隆 弘

時おり、「きれいな授業」に遭遇する。

学習課題も提示されている。板書も整然となされている。学習者が発言する場面もある。ノートやワークシートに書き込んだりもしている。時にグループで話し合ったりもしている。これが研究授業の場合には指導案も出てくるのだが、この場合には見事に、指導案に沿って授業が進み、時間通りに授業が終了する。大まかな意味では授業力に問題があるわけではない。しかし澱のような違和感が残る…。紙数の関係で十分な描写ができないが、同様の授業を御覧になり、同様の感想を持ったことがある方も多いのではないだろうか。

実は、授業を見せていただく前からその予兆が感じられる場合がある。どうやらそれは指導案から、あるいはワークシートなどから伝わってくるようだ。そう、この段階で既に「きれいに過ぎる」のである。より端的に書くなら、指導案であれば、スムーズな流れが一本、分岐するところなく流れている。ワークシートなら、その大半の書くべき答えが透けて見えるような、そういったものが準備される場合である。

ここでいう「きれいな授業」の場合、教師の用意された意図・内容の流れに沿う発言や行動、ワークシート・ノートへの記入が「きれいに」取り上げられ、授業の主流が構成される場合が多い。この形が続くと、いつの間にか学習者は「自分の考え」あるいは「別の考え」を温める作業が面倒となり始める。考え、話し合う場面でも、教師の持つ「答え」にあわせて表出していこうと努力するか、あるいは、他の誰かが解きほぐし、教師が確認するのを待つようになる。外から見て「自ら考えたことを提示し、共有する場」に見えたとしても、その実、教師の鏡となって反射させているに過ぎなかったりするるのである。

自分の頭で考え、それを伝えあい、ずれや共通点に気づき、自分の考えをさらに鍛える…、ひとりひとりが「熟考」する場面をつくり、表現させ、その伸びを確かめる、という授業場面を実現するには、教師の側にも相応の意識改革と日頃からの「あともう一つ二つ」の視点を持った上での準備・実践が求められるのである。

金沢大学教育学部附属実践総合センター・石川県教育工学研究会研究部主催

読解力セミナーⅢ「どうつくる？PISA型読解力授業」

白山市立東明小学校 中條 敏江

8月25日野々市のカメラアで、金沢大学教育学部との共催により読解力セミナーⅢが行われた。16年度第1回「読解力をつける授業とは」17年度第2回「確かな学力から豊かな学力へ」に引き続き、「どうつくる？PISA型読解力授業」というテーマで行われた。

1. 全体提案

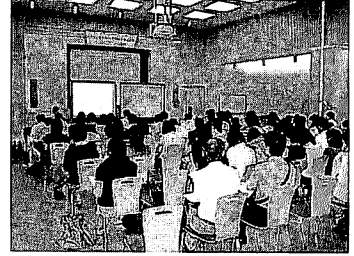
細川研究部長の全体提案では、まずPISA調査における読解力の定義をうけ、これまでのセミナーの概要についての説明があった。そして、文部科学省の読解力向上プログラムにおける各学校に期待される目標の説明から、「テキストを理解評価しながら自分の考えを書く力を高める」ことの重要性が伝えられた。また、このPISA型読解力が、全国学力調査や改訂される指導要領に影響を与えていることへ言及し、指導者である私たちが、PISA型読解力の授業を行っていく大切さが提案された。

2. グループセッション

分科会1では、西田教諭が、6年国語科「生き物はつながりの中に」の単元での「読みの学習を書くことに生かした説明文での読解指導」について実践報告された。説明文を、意見文を簡潔に分かりやすく書くための「構成モデル・文型モデル」として扱い、読み手の立場でその表現の良さに気づいた子ども達が、それらを活用する書き手となって、意見文を書くことに挑戦した実践の報告である。

社会科では、濱田教諭が、6年の大仏つくりの単元で「多様なテキストの読み取りと読解力の育成」について報告された。「実感する」「比較する」「選ぶ」ことでの目的意識のある意欲的な資料の読み取りをさせ、総合的に多角的に考えを持たせるためには、天皇だけでなく農民にまでも視点当て、その立場に立って考える場を設定したことがポイントであった。

分科会2では、平木教諭が「動物の体とはたらき」の単元において「評価しながら読む能力



の育成」を提案された。理科における評価しながら読む能力とは、目的意識や一定の視点の設定のもとに、対象を読み取ったり観察や実験の方法や結果を批判的建設的に検証したりする能力と捉え、実証性・再現性・客観性を意識した授業態度はより深く自然の事物・現象を読み取る上で必要な能力であると提案された。

算数科では、岩崎教諭が「算数科で取り組む『読む力』『考える力』の育成」について実践報告された。

算数科における「読む力」「考える力」高めるには、①身近な生活から多様な答えが考えられるような独自テキストの作成②既習内容から自分なりの視点を持ちながら解決への見通しを持たせる場の重視とその手立て③ワークシートを使って自分なりの答えとその考え方の表現の場作り、が大切だと報告された。

各分科会では、提案された実践事例が参加者により討議され、さらに助言を受けて閉じた。

3. まとめ

加藤先生（金沢大学）のコーディネートにより、授業実践の際に行うこと及び学校全体で取り組むことを明らかにし、PISA型授業つくりの視点を提案して頂いた。中川先生（メディア教育開発センター）には、全国で行われている実践例を紹介して頂き、「ちょっと努力すればできること」というのが参加者には励みになった。村井先生（星稜大学）には、県内の学校全体で取り組んでいる実践の紹介から、「言語力育成」というキーワードを頂いた。

今だからこそ国際交流学習を

石川県教育センター 清水和久

石川県教育工学研究会 秋の学習会
日時12月8日(土) 場所：教育プラザ富樫
講師 東北学院大学 稲垣忠准 教授
実践報告 金沢大学附属小 八崎和美 教諭

1. はじめに

今回の学習会では、国際交流に興味を持っている先生及び、実際に実践している先生方に集まっていた。稲垣氏「国際交流で身につく力」の講演、八崎氏「アートマイルプロジェクトに参加しての具体的な取り組み」の報告がなされた。

アートマイルプロジェクトとは、外国の子供たちと共同で大きな壁画を描くプロジェクト、ティンバアプロジェクトはぬいぐるみを送りあって、お互いの生活の様子を知らせあうプロジェクトである。これらはJERAN（国際教育ネットワーク）のプロジェクトであり、誰でも参加できる。本年度は石川県から、アートマイル(7クラス)とティンバア(7クラス)合計12校14クラスの児童が参加している。

2. 稲垣忠准教授のお話より



稲垣氏は「学校間交流」をライフワークとして研究しており、交流学習において最も重要な物を「交流の必然性が生まれる魅力ある

テーマ」と、それを深められる「カリキュラムのデザインである」としている。そのデザインとして、3層のレベル（コラボレーション、コミュニティ、コミュニケーション）と10の学習ステップを提案している。（参照：「学校間交流学習をはじめよう」日本文教出版2004）

今回アートマイルプロジェクトに関して、共同で壁画を描くことによる学びは以下の4点

- ①伝えたい相手 同年代→親近感
- ②伝え方の工夫 伝わらない実感→工夫

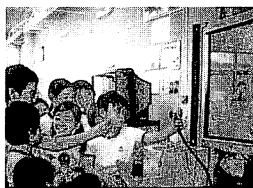
③人間関係の形成 自己紹介→共同作業へ

④異文化体験 外国文化→自分の分かり直し

壁画を描くという共同作業を国際間で経験することによって、メディアを活用する力、人間関係を組み替える力、自分たちの文化を見つめ直す力がつく」と述べている

3. 八崎教諭の実践報告より

6月から台湾と交流を始め、TV会議で自己紹介をするところまではとても盛り上がったが、9月以降の絵の具体的な内容の話し合いに入ると訳した英語だけでは伝わらず、子どもたちのテンションが大幅にさがった。相手も日本側の直訳調の難しい英語の説明には、あくびをするなど興味がない様子を示すようになった。



そこで八崎氏は、どうすれば自分たちの思いを相手にわからせることができるかを子ども達と相談し、係の設置と活動ごとのループ

リック(評価基準)を子ども達と共に考えた。

その結果、係はレイアウト班(絵の構図)、交流班(TV会議の段取り)ニュース番組班(ビデオ作り)、ホームページ班の4つに分け、それぞれの活動に責任を持ち、活動ごとにどのような姿が一番いい姿なのかを相談して、4段階の評価基準(S.A.B.C)を決め、毎回自分たちで評価できるようにした。このループリックがあることで各自の努力目標が分かり、クラス全体でSが達成できるよう一致団結して交流に取り組むようになった。

4. おわりに

国際交流学習は、相手意識を持って、みんなで悩みながらどうすれば意思疎通ができるかを考えるところに学ぶ価値がある。みなさんも来年取り組んでみませんか？

デジタル時代の授業創造講座

～先生のための教え方教室～

石川県小中学校視聴覚教育研究協議会長 内田 正明

1. はじめに

NHK金沢放送局と石川県小中学校視聴覚教育研究協議会は、日本放送教育協会の協力を得て、NHK学校放送番組・デジタル教材を活用した授業づくりの研修会「デジタル時代の授業創造講座～先生のための教え方教室～『日本とことん見聞録』活用法」を実施した。

2. 研修会概要

(1) 目的

番組や番組に連動したデジタルコンテンツを利用して効果的な授業を行うにはどうすればいいのか、また年間計画の中での位置づけ、単元構成のありかた等について、メディア教育研究者や現場教師、さらにNHK番組制作者も交えて考える。

(2) 実施日時 H19.8.27 13:00～

(3) 開催場所 金沢市立夕日寺小学校

(4) 共催(財)日本放送教育協会

(5) 後援 石川県教委、金沢市教委

(6) 指導講師

村井万寿夫(金沢星稜大学准教授)

中村武弘(三重県教委、主幹兼研修主事)

白江 勉(富山県西部教育事務所指導主事)

3. 研修内容

(1) 挨拶 協議会会長、NHK金沢放送局長

(2) NHKプロデューサーによる番組制作意図説明

(3) 白江勉先生による模擬授業「米づくりのさかなな地域」(45分)

- ・「日本とことん見聞録」～米づくりの1年～利用
- ・参加者が児童役になって、白江先生の授業を受け、教師の授業意図や組み立て方、番組やクリップの使い方を学ぶ。

(4) 中村武弘先生の演習「面白い授業を作るためのクリップ活用術」(100分)

- ・課題説明と事例紹介
- ・8グループに分かれての「クリップを活用

した授業」プランづくり

- ・代表チームによる模擬授業と、講師によるコメント、評価

(5) 講師によるパネルディスカッション

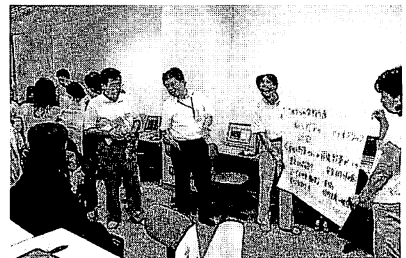
4. 参加者の感想から

○白江先生の授業は子どもの興味・関心を引く導入で、テレビ視聴の必要性もドンピシャと感じさせての視聴でした。ワークショップはテンポ良く進められました。クリップで授業を組み立てるのは短時間で考えられることもあって、とても良かった。模擬授業のコメントを言うてもらうことで授業の意図がより明確になりました。村井先生、中村先生のコメントはズバリ核をついていました。

○子どもが興味を持って授業をするには、「おやっ」「なぜだろう」「調べてみたい」という気持ちが大切だが、今日のクリップ活用の授業案作成活動はとても役立ちました。NHKのデジタル教材はいろいろ考えてつくられていると思いました。

5. さいごに

学校放送番組についての説明、模擬授業、授業づくりの演習と発表、パネルディスカッションと多様な学びの場が設定され、また3名の指導者が自らの経験等を基に、良い授業を創るという観点から適切な指導をテンポ良く行い、4時間があっという間に過ぎた。43人の参加者には十分満足していただけである。



「グループによる授業プラン交流」

大判プリンターの活用

金沢市立大徳小学校 飯田 淳一

1. 拡大印刷のよさ

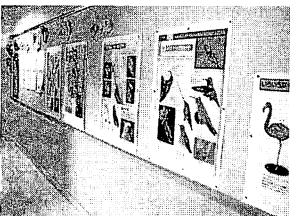
授業で資料を大きく印刷し提示すると、児童の視線が集中したり情報を共有したりすることができる。じっくりと見ることができるよさと書き込みができ、そのまま「みんなの学習の足跡としての掲示物」として使えるよさがある。

またいくつもの資料を並べて黒板にはり、比べて考えたり、必要な情報を選んだり、まとめたりして学習の深まりが期待できるのは、プロジェクトでの提示にはないよさである。以下、本校での大判プリンターの活用例のほんの一部であるが紹介する。

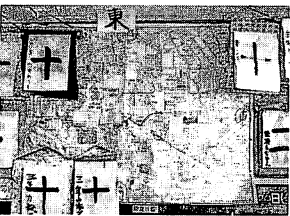
2. 教科書のイラストや資料を拡大



1年生国語科
自動車しらべ
教科書のイラストを拡大印刷し気づいたことを話し合ったことを書き込む。学習後はそのまま掲示物になる。

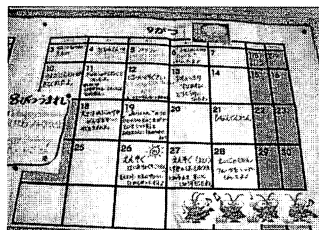


1年国語科
鳥のくちばし
図鑑をスキャナで読み取り拡大印刷し廊下に掲示。



1年生のカレンダー風学級日誌

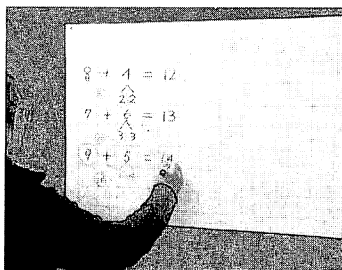
3年社会科
校区探検
A1サイズ4枚分の地図に発見したことを書き込んでいく。一太郎のポスター印刷を利用して貼り合わせる。



教室の後ろに学級の歩みが残されていく。

3. バックライトフィルムをつかって

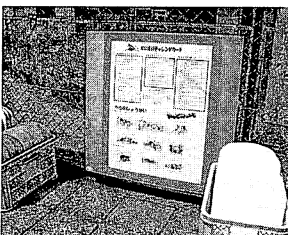
ラミネートのようなコーティングした紙に印刷できるバックライトフィルムを使うと、水性のペンで書き込んで消すことができたり、水がかかるようなところでも使えたりして大変便利である。特に子どものノートと同じマスシートを作ると、ノートの書き方指導がたいへんやりやすくまた児童の間違いも少なくなる。



1年算数科
同じマスというのがミソ。特に低学年で威力を発揮する。



4年英語科
アルファベットの書き方指導
何度でも書いて見せたり児童に書かせて定着させる。



体育科
プールサイドに水泳がんばりカードの掲示
一夏雨ざらしかったが大丈夫だった。

メディア等を利用したPISA型読解力を視点を持った学習展開例の研究

1. はじめに

メディア教育振興会では、平成18年度より「メディア等を利用したPISA型読解力を視点を持った学習展開事例の研究」をおこなってきた。着目点は2点。

- ①各教科におけるテキストの取り出し、解釈、熟考・評価の具体的な場面から、それぞれの教科で求められているPISA型読解力の特徴や共通点の明確化
- ②PISA型読解力の獲得の過程に応じたメディアの活用場面の想定とその効果の考察

8月には読解力セミナーを開き、国語、算数、理科、社会についての実践例を発表した。

2. 実践事例の収集

この研究会として行った実践は18事例（小学校16、高校2）である。それぞれの実践で、指導のねらいにおける改善のポイントの焦点化、その単元における具体的なテキスト、および、授業のねらいを提示してもらった。

図表1 焦点を当てた改善のポイント

指導のねらい	国	社	算	理	生	音	図
ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること							
(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成	○	○	○	○			
(イ) 評価しながら読む能力の育成	○			○			○
(ウ) 課題に即応した読む能力の育成		○			○		
イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること							
(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成	○	○	○				○
(イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成	○						
ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること							
(ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成	○	○					○
(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成	○						

多い事例として、情報の取り出しの時に、興味関心を高めるためにメディアなどが利用されている。また、考える場面では個人の思考プロセスを残す場面や、グループで意見を共有して発表する場面などで使われる場合も多い。

普通教室で日常的にICTを活用した授業を行うことが求められているが、PISA型読解力を育成する授業においてもICTを含めて使う場面と効果を今後明らかにできればと考えている。

↓ 図表2 実践事例(小学校)

教科	改善の方向	単元	テキスト	ねらい
1 国語2年	イ(イ)ウ(イ)	1本の木	説明書	友達で作成した説明書に対して、自分の考えを言語で表現し、コメントする能力を身に付ける
2 国語3年	ウ(イ)	おもしろい物見つけた	デジタルカメラ	デジタルカメラで撮った写真を分析しながら考えたことや感じたことを自分お言葉で表現すること、詳しく説明をする力を育成する
3 国語4年	ア(ウ)	「かも」ことこの力	説明文	段落相互の関係を考え、全体構造とらえ、内容を正確に読み取り、自分の体や生活に対する考えを求めようとする力を育成する
4 国語6年	ア(ア)(イ)イ(イ)	生き物として生きる	説明文、ワークシート	筆者の考えに対する自分の考えを、説明文の構成や表現の良さを理解した上で、自分の文章に活用する
5 算数2年	ア(ア)	かけ算	問)乗り物の乗客の人数	対角線の長さに着目して図形を作り、それぞれの性質を基に自分なりの名前をつけ発表する
6 算数5年	イ(ア)	四角形	問)コマ回しを作る厚紙	お菓子をつくる積数の材料をもとに最大制作個数を考えることで、小数の割り算の意味を学ぶ
7 算数5年	ア(ア)	小数のかけ算	問)マドレーヌの材料	6人の3回の水泳のタイムをもとに代表者を3人選ぶ問題で、タイムの向上傾向や平均なども加味して自分なりの選んば根拠を論理的に説明できるようにする
8 算数5年	ア(ア)イ(ア)	平均	問)水泳のタイム	様々な資料から、米作りには大型機械化、共同作業化の工夫をおこなってきた意識について考えることができる
9 社会5年	ア(ア)イ(ア)	食料生産	資料集、おこめVTR	農民の立場として大仏作りに参加するかしないかを、根拠となる資料をもとに話ししたり、書いたりできるようにする
10 社会6年	ア(ア)ウ(ア)	大仏	写真資料、万葉集など	家光が大名を統制できた理由を配置図及び武家諸法度から推測し、自分の考えとしてまとめる
11 社会6年	ア(ウ)	将軍と大名	写真資料、資料集	電磁石の電流との強さと力の関係を調べる実験を通して、実験結果を評価しながら読み取る力を育成する
12 理科6年	ア(イ)	電磁石	電磁石の実験	食べ物と排泄される物の比較から、体の中での変化を追及させ、実験方法や条件を変えながら考察させる
13 理科6年	ア(ア)(イ)	動物の体の働き	唾液の消化実験	繰り返し学校探検をおこなうことで、自分のこだわりを持って関わることができ、活動したことを具体物、半具体物を用いてわかりやすく伝えようとする
14 生活1年	ア(ア)(イ)	なかよしっばい大作戦	探検カード、学校地図	自分の考えや感じ取ったことを音楽記号や言葉で楽譜譜に書き込んで行く活動を適し、実際の演奏活動に生かす力を育成する
15 音楽6年	イ(ア)	メヌエット	クリーガーのメヌエット	身近にある物から顔を見つけて、デジタルカメラで撮り撮影する。自分の見方感じ方をわかりやすく述べたり、相手の意図を感じながら話し合いして交流をはかる。
16 図工4年	ア(ア)(イ)ウ(イ)	顔コレクション	子どもが見つけた顔	

算数科で取り組む『読む力』『考える力』の育成

----- 七尾市立徳田小学校 岩崎京子 -----

1. 算数科における読解力の捉え

「読解力向上に関する指導資料～PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向」（H17 文部科学省）における「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」「論述」の4つの視点から、算数科での捉えを以下のように考えた。

- 数値や図、式、文章などから正確に必要な情報を取り出す力【情報の取り出し】
- 取り出した情報から筋道立てて答えを導き出す力【解釈】
- たどりついた答えが正しいかどうか、もっと簡単な方法はないかなどをその目的や思考過程に立ちもどって再考する力【熟考】
- 答えにたどりつくまでの考え方を図や式、文章などで論理的に表現する力【論述】

算数科における『読む力』には、わかっていることは何か、わかっていないことは何かなど、正しく課題の状況をつかむ力や、図や式、文章が表している意味や関係を正しく読み取る力があると考える。また、それに連動した『考える力』には、数や式、図、数直線などが表す意味や関係を考える力や見通しを持って考える力などがあると考えた。

2. 『読む力』『考える力』育成のポイント

①テキスト作成のポイント

<内容面>

- 子どもたちの身近な生活に関連するもの
- 既習の学習と結びつけて考えることができるもの
- 複数の答えが考えられるもの

<形式面>

- 連続テキスト、非連続テキストを組み合わせる
- 通常のテキストの分量よりは多めにし、情報の取り出しから考えさせる
- 考えや理由を記述式で書かせる

②解決への見通しを持たせる手立て

- 自分なりの視点を持って読ませる
- 既習の学習から使えることはないかを考えさせる
- 思考の途中（テキストや別紙に考えたことや計算）を書かせる

③自分なりの答えと考え方を表現させる手立て

- ワークシートを使って自分の考えを書かせる
- 目的、相手意識を持って発表する場面を設定する
- 小グループの中で、話し合わせる

3. 授業実践<第6学年『平均』>

(課題)

七尾市水泳大会にでるリレーの選手を4名決めることになりました。あなたが監督だとしたら、これまでのタイムを参考にすると、だれを選手にしますか。選手を発表して、6名にその理由を話してあげましょう。

子どもたちはテキストの表を読みながら、多様な視点(①平均 ②ベストタイム③タイムの変化④大会前日のタイム⑤3回のタイム差 等)

から考えることができた。自分なりの視点を持たたのは21人中18人。タイムが上がってきている3人を選び、残り1人はタイム差(開き)の少ない人になり、平均とタイムの上がり方の両方を見ながら選ぶなど、二つ以上の視点から考えた子どももいた。4人選ぶという目的に照らしながら必要な情報を読み取っていくことができた。また、

ワークシートには、自分で考えた選び方を図や矢印で示してみたり、仮の平均を使いながら工夫して考えた足跡が残っている。思考途中のプロセスを書き出しながら考えることができた。

4. 授業改善の方向性

今後『考える力』育成に向けては、①小グループ活動と自己・相互評価の場の設定②思考力を高めるルーブリック(評価基準)作成③多様な見方や視点の持たせ方を探していきたい。

50mクロールのタイム(秒)

	2週間前	1週間前	大会前日
Aさん	39	38	38
Bさん	36	39	39
Cさん	42	40	37
Dさん	44	41	38
Eさん	36	36	42
Fさん	34	36	38



まず、2週間前、1週間前、大会前日のそれぞれの1番速い人のところに○でかこんで、それから2位3位4位までの人を□でかこみました。そのあとそれぞれの人の○の数を数えたら、Fさん、Eさん、Cさんになりました。あと一人は残った3人の中から最も速く泳いだ人を探すとBさんになったので、・・・になりました。

社会科で取り組む多様なテキストの読み取りと読解力の育成

金沢市立扇台小学校 濱田 美恵子

1. 社会科における読解力の捉え

社会科で使われる資料は、様々である。文章資料の他、写真・絵・パンフレットなど、さらに、ものや人など多種多様にある。これら連続型テキスト、及び非連続型テキストを読み取り、活用することが、読解力において必要な力として求められている。そして、指導要領では、社会科のねらいを「各種基本的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味を深い視野から考える力を育てるようにすること」としている。そこで、社会科の授業で読解力との関連を次のように考えた。

- ・テキスト（資料）を正確に読み、事実をはっきりさせる。[情報の取り出し・解釈]
- ・獲得した知識をもとに、その特徴や社会的意味を考える。[熟考]
- ・さらにそれをもとに、多面的な視点で、自分の考えを持ち、考えの根拠となる資料を取り出し、再構成し、表現する。[論述]

そして、授業の中で、どのようなテキストをどのように与え、どのように活用させるかを研究のポイントとした。

2. 指導のポイント

歴史の学習において、次の2つのポイントを指導の重点とした。一つは、目的意識をもって多様な資料を読み解くこと、そして、もう一つは、獲得した知識を利用し、多角的に捉え、総合的に考え、表現することである。

意欲的に学習に取り組ませるためには、課題の明確化が必要である。そのため、テキストの提示を工夫する必要がある。例えば、導入において、教師が与える共通資料は、児童が視覚的にそのものを実感できるような実物あるいは擬似的な資料が有効である。また、課題を持つ段階での、比較資料は有効であった。児童自身により作られた課題は、その後の学習の意欲を持続させ、考えを深めることとなった。

多様なテキストから選択収集する力の育成のためには、解決したい具体的なテーマをもって、調べ学習を行いたい。テーマが具体的であるこ

とは、児童自身が進んで必要な資料を取り出すことにつながった。

また、テキストから総合的に、多面的に考えを持つためには、自分自身がそれぞれの立場に身を置いて考える場の設定が有効であった。歴史的事象やそれに関連の深い先人の業績について学習した後、農民の立場に立ち、考え話し合わせる学習を取り入れた。そうすることで獲得した知識をもう一度自分の中で構築することになった。さらに、単元の振り返りでは、課題を持たせ、自分の考えを書かせる年表作りを行った。自分の考えの根拠をこれまでに獲得した知識から探し、その考えの基になる資料を書かせることで資料の活用する場をもつことになった。

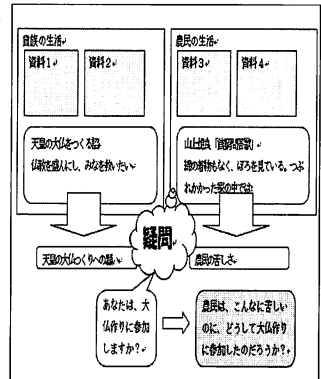
3. 授業実践

[第6学年『聖武天皇と奈良の大仏』

<農民は、大仏作りにどのような思いで、参加したのだろうか>

農民の立場に立って考える場として、貴族の暮らしと農民の暮らしの比較後、天皇の大仏作りの詔が出された時の農民の思いに視点を当てて考え

させた。児童は、これまでに獲得した事実をもとに賛成、反対の立場にたって考えを出していた。その後、天皇の思いや、行基の業績、行基に助けを求めざるをえなかった朝廷の政策について考えを広めることになった。



4. 授業改善の方向性

多様な資料の読み取りのため、資料をどのように読み取らせるかについての指導、資料の提示や活用のためのメディアを活用方法について考えたい。

平成19年度 石川県教育工学研究大会

主催 石川県教育工学研究会・金沢大学教育学部附属教育実践総合センター

- 1 開催日 平成20年3月2日(日)
- 2 会場 金沢大学教育学部附属教育実践総合センター
(〒902-1192 金沢市角間町 TEL 076-264-5588)
- 3 日程

受 付	挨拶	(1) 分科会 自由研究発表	[昼食] 理事会 12:00～12:50	(2) 全体会 学 習 会
9:30	9:55	10:00	11:50	13:00
				15:10

4 内 容

(1) 分科会(自由発表) 10:00～11:55

A分科会 メディア活用・教材開発 (1階 視聴覚研究室) 座長 加藤隆弘(金沢大学)

1) ホワイトボードを使った即時評価システム

～フラッシュカード型Webページで漢字練習～

金沢市立浅野川小学校 青江 弘義 10:00～10:15

2) 児童の文書作成力を高める文書モデルとデジタルカメラとの補完的活用

～ユニバーサルデザインの意見文・提案書づくりを通して～

金沢市立夕日寺小学校 細川都司恵 10:15～10:30

3) 社会科での多様なテキストの読み取りと読解力の育成

金沢市立扇台小学校 濱田美恵子 10:30～10:45

4) 液晶ペンタブレット活用による教師の教え方の改善と子どもの学び方の変化

～算数科図形領域における知識・理解を深めることをめざして～

七尾市立徳田小学校 岩崎 京子 10:45～11:00

5) 学校教育における電子黒板活用の類型化と既存のアナログ教材との

「選択」「組み合わせ」に関する意識調査

かほく市立外日角小学校 小林 祐紀 11:05～11:20

6) 画像データベースソフトの活用についての一考察

～工場見学時のメモとまとめコメントの比較を通して～

金沢市立大徳小学校 飯田 淳一 11:20～11:35

7) 国語科における教科書デジタル化教材の各機能と教師のねらいの関連性の研究

金沢大学大学院教育学研究科 遠衛 孝成 11:35～11:50

B分科会 授業設計 (2階 教育実践研究室) 座長 村井万寿夫 (金沢星稜大学)

- 1) ゲストティーチャーを効果的に活用する手だてに関する研究
 ～ ゲストティーチャーの授業実践を通して ～
 金沢大学教育学部附属教育実践総合センター 村瀬 悠 10:00～10:15
- 2) 教師の力量を高める国際交流学习研修講座の開発
 石川県教育センター 清水 和久 10:15～10:30
- 3) メディア創造力を育む授業デザイン
 金沢大学教育学部附属小学校 八崎 和美 10:30～10:45
- 4) メディア創造力を育む音楽科の授業デザイン
 ～音楽表現の向上につなげるハイビジョンの活用・クラス合奏のスキルアップをはかる～
 金沢大学教育学部附属小学校 今井 直人 10:45～11:00
- 5) メディア創造力を育む算数科の授業デザイン
 ～2年「かけ算の学習」を通して～
 金沢大学教育学部附属小学校 金岡 弘宣 11:05～11:20
- 6) メディア創造力を育む図画工作科授業のデザイン
 ～4年「小さくて大きい?ジョイナーフォトで伝えよう?」を通して～
 金沢大学教育学部附属小学校 谷本 克典 11:20～11:35

(2) 全体会・学習会 13:00～15:10 (2階 教育実践研究室)

テーマ：「新学習指導要領で期待される学びとは？」

会場：実践センター2階 教育実践研究室

現状報告「新指導要領の変更点」についての確認

石川県教育センター 清水 和久

提案1 言語力、学力の視点から

金沢大学教育学部 准教授 加藤 隆弘

提案2 交流学习、キーコンピテンシーの視点から

東北学院大学 准教授 稲垣 忠

平成19年度 石川県教育工学研究大会アブストラクト集

A分科会 メディア活用 実践センター1階 視聴覚研究室

1) ホワイトボードを使った即時評価システム

～フラッシュカード型Webページで漢字練習～

金沢市立浅野川小学校 青江 弘義

漢字の学習では、文字の形と読み、意味を統合して覚えていかなければならない。漢字の定着は、書き取りテストによって評価するのが一般的であるが、ホワイトボードを使うことによって、その場で評価・修正を行うことができるようになった。

2) 児童の文書作成力を高める文書モデルとデジタルカメラとの補完的活用

～ユニバーサルデザインの意見文・提案書づくりを通して～

金沢市立夕日寺小学校 細川都司恵

生活文・意見文・提案書など文書の特徴や共通性を文書モデルから学ぶ。それをもとにデジタルカメラの画像で段落構成することで、文書作成の手がかりをつかむことができた。この活動で、段落の構成や接続語の活用・事実と意見を区別する力が児童に身につく、多様な文書作成に対応できる能力を高めることができた。

3) 社会科での多様なテキストの読み取りと読解力の育成

金沢市立扇台小学校 濱田美恵子

社会科において、資料の読み取りは、学習の中で重要な位置を占めている。そこで、テキストを理解・評価しながら読む力を育てるために、多様なテキストにはたらきかける場の工夫が必要であると考えた。さらに、テキストを読み取り活用する力の育成のために、多様なテキストをどのように学習に位置づけ、どのように活用させるかについて考察する。

4) 液晶ペンタブレット活用による教師の教え方の改善と子どもの学び方の変化

～算数科図形領域における知識・理解を深めることをめざして～

七尾市立徳田小学校 岩崎 京子

算数的活動と知識・理解をつなぐための教え方の改善とそれによって変化する学び方について探るため、第5学年「垂直・平行、四角形」の単元で授業実践を行った。授業実践にあたっては、図形領域の学習に焦点を当て、ICTを効果的に活用することが授業改善と学びの変化に好影響を及ぼすとの考えのもと、液晶ペンタブレットを活用した。その結果、教師が図形の書き方のポイントを示したり、繰り返してやってみせたりすることなどにより、子ども一人一人の知識・理解の定着を図ることができた。また、液晶ペンタブレットを子ども自身が操作しながら作図の仕方や図形の性質について説明し合うことにより学びの意識が高まり、知識・理解が深まることがわかった。

5) 学校教育における電子黒板活用の類型化と既存のアナログ教材との

「選択」「組み合わせ」に関する意識調査

かほく市立外日角小学校 小林 祐紀

本研究は、学校教育における電子黒板活用の類型化と電子黒板と既存のアナログ教材との「選択」「組み合わせ」に関する教師の意識を明らかにすることを目的としている。「新世代黒板環境プロジェクト」に参加する教師を対象にして、授業実践の報告と質問紙調査を実施した。教師の電子黒板活用の意図を整理した結果、電子黒板の活用を「説明の焦点化」「モデルの提示」「知識/技能の定着」「情報の比較・共有」「イメージの喚起」「コンテンツの作成」の6つに類型化することができた。電子黒板と既存のアナログ教材の活用の際に教師の意識を分析・検討した結果、教師たちは電子黒板と既存のアナログ教材の特性を認識したうえでそれらを組み合わせて活用していることが示された。これらの調査から、今後の学校教育における電子黒板の効果的な活用のためには、授業のねらいに応じて既存のアナログ教材を適宜取り入れ、電子黒板との相乗効果を意図して授業を行うことが望ましいと示唆された。

6) 画像データベースソフトの活用についての一考察

～工場見学時のメモとまとめコメントの比較を通して～

金沢市立大徳小学校 飯田 淳一

画像データベースソフト「チルドレンライブラリ」を用いて、工場見学のまとめを行った。アルバム機能で児童が個々に必要な写真を選び、レイアウトした後印刷して、書き込みを行い、各自のまとめを作成した。見学時のメモとまとめのコメントを比較してみると、見学時のメモの内容からではなく写真からの情報でまとめのコメントを書いている割合が高かった。このことから見学時に見逃したことを、写真から自分で気づいたり考えたりすることができることがわかった。

7) 国語科における教科書デジタル化教材の各機能と教師のねらいの関連性の研究

金沢大学大学院教育学研究科 遠衛 孝成

今日、様々なデジタル教材が開発されているが、そのデジタル教材が授業で活用されているかという、あまり活用されていないのが実際である。その原因の一つとして、授業場面でその教材をどう活用することで、効果的な活用ができるのかが、不明確だと多くの教師が感じているという問題がある。本研究では、教科書デジタル化教材について、活用場面における教材の各機能と教師のねらいにどのような関連性の傾向があるかを調査した。それにより、教科書デジタル化教材を活用している教師が各機能を用いることにより、どのような学習効果をねらいとしているかの傾向を明らかにすることができた。

B分科会 授業設計 実践センター2階 教育実践研究室

1) ゲストティーチャーを効果的に活用する手だてに関する研究

～ ゲストティーチャーの授業実践を通して ～

金沢大学教育学部附属教育実践総合センター 村瀬 悠

ゲストティーチャーとつくる授業において、教師がゲストティーチャーに期待することはよく整理されているが、逆にゲストティーチャーが教師に求めるものは中々見えにくいのではないと思われる。実践と実践後の教師・ゲストティーチャーへのインタビューを通して、教師の配慮点はゲストティーチャーにはどう受け止められたかを検証することで、今後の授業設計に役立つことが見えてくると考える。

2) 教師の力量を高める国際交流学習研修講座の開発

石川県教育センター 清水 和久

国際交流学習に興味があっても、具体的な方法がわからないため、躊躇する人が多い。そこで、交流相手の紹介、交流ツール、参加プロジェクトなどを準備し、講義と演習を組み合わせた講座を開設し支援をおこなった。その結果、研修参加者は、それぞれ交流相手を見つけ、国際交流学習に取り組むことができた。しかし、「相手校との連絡の頻度」「児童への意識付け」「総合の中での位置づけ」「教師の交流に対する思い」などの要素によって達成感に大きな違いがあることがわかった。

3) メディア創造力を育む授業デザイン

金沢大学教育学部附属小学校 八崎 和美

教師コミュニティD-project（デジタル表現研究会、会長：中川一史）で取り組まれてきたメディア表現学習の実践が、学力を高めるひとつの方法として重要な意味を持つという立場から、「メディア創造力」という概念が提示された。本研究では、その理論を受け、どのような実践を行えば「メディア創造力」を養えるのか、具体的な実践をもとに明らかにしていく。

4) メディア創造力を育む音楽科の授業デザイン

～音楽表現の向上につなげるハイビジョンの活用・クラス合奏のスキルアップをはかる～

金沢大学教育学部附属小学校 今井 直人

昨今急速に普及しつつあるハイビジョンを音楽科の学習活動で活用し、高精細な画像から具体的な演奏技法や表現の工夫を児童に気付かせることで、音楽表現の向上をめざす。その学習プロセスの中でメディア創造力が具現化された姿を見取り、学習効果と教師の配慮点を明らかにする。

5) メディア創造力を育む算数科の授業デザイン

～2年「かけ算の学習」を通して～

金沢大学教育学部附属小学校 金岡 弘宣

本研究では、2年算数科「かけ算」の授業における基礎・基本を「かけ算の意味を理解すること」ととらえ、実践・応用（メディア創造力）を育むためのキーセンテンスと学習プロセスを実際の授業の中に組み込み、その学習プロセスの中の学習活動について、その学習効果と教師の配慮点を明らかにする。

6) メディア創造力を育む図画工作科授業のデザイン

～4年「小さくて大きい?ジョイナーフォトで伝えよう?」を通して～

金沢大学教育学部附属小学校 谷本 克典

本研究は、メディア創造力の定義からめざす子どもの姿を設定し、その具現化をめざす図画工作科の授業デザインについて考察するものである。メディア創造力を育むためのキーセンテンスと学習プロセスを実際の授業実践に組み込み、その学習プロセスの中で生じている学習活動についてその学習効果と教師の配慮点を明確にしたい。

平成19年度 石川県教育工学研究会事業報告

事 業	期 日	概 要
1 総 会 理 事 会	19年 5 月27日 19年 3 月 2 日	平成19年度総会〔於：金沢市教育プラザ富樫〕 ・平成18年度事業報告・決算報告 ・平成19年度事業計画・予算案 平成19年度理事会〔於：金沢大学〕 ・平成18年度事業報告・決算中間報告 ・平成19年度事業計画・予算案 ・平成19年度役員案
2 研究事業	5月27日(日) 7月5日(木) 午後7:00～ 8月25日(土) 午後1:00～ 8月27日(月) 11月16・17日 12月1日(土) 12月8日(土) 午後1:00～ 3月2日(日)	○講演会・学習会「授業研究の進め方」 会場：金沢市教育プラザ富樫 ○学習会「全国学力テスト分析会」 会場：金沢市教育プラザ富樫 ○夏の研究会「PISA型読解力セミナー」 主催：金沢大学教育学部教育総合実践総合センター 共催：教育工学研究会・メディア教育振興会 ○研修会「デジタル時代の授業創造講座～先生のための 教え方教室～『日本とことん見聞録』活用法」 会場：夕日寺小学校 ○第33回全日本教育工学研究協議会全国大会（千葉旭市） ○北陸三県教育工学研究大会福井大会 ○冬の研究会「国際理解教育セミナー」 会場：金沢市教育プラザ富樫 ○平成19年度石川県教育工学研究大会 会場：金沢大学
3 刊行事業	4, 6, 8, 10, 12, 2月 7月、3月 3月	○研究会ニュース(年6回：当研究会ホームページにて掲載) ○会報(73号、74号、B5版、24頁、200部) ○第33号研究紀要(A4版、50頁、200部)

編 集 後 記

今年度も研究部の活動が精力的に行われました。
日本教育工学研究協議会でも多くの会員の方が発表
しました。

今回は、授業での機器の使い方の紹介をしました。
忙しい中、児童の意欲を高め授業力を高める方策を
考えていきたいと思えます。今後も充実した活動が
広がっていきますよう、みなさまのご意見なども(H
Pの方へ寄せていただきたいと思います。

【会報担当】

会費納入についてのお願い

研究会の円滑な運営のため、会費納入を
お願いします。 年額 3,000円

平成20年 3月 2日 発行

発行者 石川県教育工学研究会
代表者 岡部昌樹
事務局 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学教育学部附属
教育実践総合センター内
TEL 264-5588 FAX 264-5589
印刷所 (株)小林太一印刷所
TEL 238-5454 FAX 238-5453